

## 【対談型講演会】 「当事者と当事者を支える家族、それぞれの思い」

今回は、「当事者と家族がそれぞれの立場で語る」ことを大切に、「当事者と家族の思いや関係性」にスポットを当てた対談型講演会を開催いたします。今回の対談テーマにつながる導入として、講師の言葉を引用してご紹介します。



鈴木 大介氏

**鈴木氏** 「高次脳機能障害にはグラデーションが激しくあり、重度なケースでは本当にご家族が大変だが、軽度なケースの僕からすると、『高次脳機能障害者は1人じゃ何もできなくなる』とそればかり言われたら、たまらない気持ちにもなります。でも逆に重度なケースの家族から、『鈴木さんみたいな回復像をもって高次脳機能障害を語られたらたまらん』というお気持ちもあるはずなんですね。当事者と家族会の敵対ケースなんかもあり、当事者と家族の分断も起きかねない、でも僕のような軽度なケースの言葉が本当に苦しんでいるご家族の支えになることもまたあるんじゃないかと思っています。当事者と家族の歩み寄りをしたいんです。」

**柴本氏** 「家族からばかりではなく当事者の方からの発信が必要だと常々思っていたので、鈴木さんの登場を喜びました。が、ほどなく軽度の方が発信される高次脳機能障害者像こそが世間の通念になりかねない、と危惧を覚えることに。鈴木さんと私がこの際思っていることを率直に語り、長谷川先生にまとめて頂き、この連絡会が皆様の高次脳機能障害への理解を一層深める機会となることを願います。」



柴本 礼氏



長谷川 幹氏

講師には、高次脳機能障害当事者の鈴木 大介氏、当事者家族（妻）の柴本 礼氏、高次脳機能障害者のリハビリテーションに長年地域で取り組み、高次脳機能障害当事者となった妻を支えた経験を持つ長谷川 幹氏の3名をお招きし、鼎談の中で生まれる自由な展開を大切にしながらお話いただきます。ぜひ、皆様がつながりのある当事者やご家族の方にもお声がけいただき、ご一緒に参加いただけますと幸いです。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 開催日時

令和5年11月8日（水）18:00~20:00（講演・鼎談 / 質疑応答）

※講師の皆様は会場より講演いただき、その様子をオンライン参加者へ向けて配信します。

### 参加方法 / 定員

【オンライン参加】 定員70名 ZOOM Cloud Meetings

【会場参加】 定員30名 国分寺市障害者センター 2階 多目的室  
(国分寺市泉町2-3-8 / JR西国分寺駅より徒歩8分)

### 申込方法

①オンラインお申し込みフォーム ※URL またはQRコードよりアクセスしてください。

URL <https://web.gogo.jp/manyounosato/form/koujinou>



②FAX (042-321-1207) ※裏面の参加申込所に必要事項をご記入ください。

### 講師

文筆業 / 高次脳機能障害当事者

イラストレーター / 当事者家族

リハビリテーション科医師（世田谷公園前クリニック）

鈴木 大介 氏

柴本 礼 氏

長谷川 幹 氏

今回の案内チラシのイラストは、柴本さんに提供いただきました。

### 主催 / お問い合わせ

【 万葉の里 地域活動支援センターつばさ】

〒185-0024 国分寺市泉町2-3-8 国分寺市障害者センター内

電話：042-321-1136 / FAX：042-321-1207 / 法人ホームページ <https://www.manyounosato.or.jp>

### その他

- ・事前に、当日参加される方、全員のお申し込みをお願いします。
- ・本連絡会における、録音・録画・撮影、また配布資料の二次利用等は固くお断りしております。
- ・参加申し込み締め切りは11月2日（木）です。
- ・ID・パスワード等を記載した参加案内（オンライン参加者向け）は、11月6日（月）以降に送信予定です。

FAXでお申し込みの方は、FAX：042-321-1207まで、ご送信ください。

担当：松原・我那覇 行

講師のご紹介



©合同出版

鈴木 大介 氏 【文筆業 / 高次脳機能障害当事者】



子どもや女性、若者の貧困問題をテーマに「最貧困女子」(幻冬舎)などを代表作とするルポライターだったが、2015年に脳梗塞を発症。その後は、高次脳機能障害者としての自身を取材した闘病記「脳が壊れた」「脳は回復する」(いずれも新潮社)や夫婦での障害受容を描いた「されど愛しきお妻様」(講談社)などを出版し、援助職全般向けの指南書「『脳コワさん』支援ガイド」(医学書院)にて日本医学ジャーナリスト協会賞大賞受賞。最新の著作に「この脳で生きる。脳損傷のスズキさん、今日も全滅」(合同出版)。

柴本 礼 氏 【イラストレーター / 当事者家族】



©主婦の友社



2004年に夫がくも膜下出血で倒れ、高次脳機能障害を負う。夫が就労するまでの6年間の家族の姿を描いたコミックエッセイ『日々コウジ中』(主婦の友社)を2010年に、続編となる『続・日々コウジ中』(同)を2011年に出版。高次脳機能障害を当事者家族の目線で、わかりやすく描いた本として話題に。東京高次脳機能障害協議会(TKK)理事/「高次脳機能障害コウジ村」代表/日本ケアラー連盟理事。

長谷川 幹 氏 【リハビリテーション科医師】



©青海社



世田谷公園前クリニック名誉院長。一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会理事長。著書に「リハビリ医の妻が脳卒中になった時—発病から復職まで」(共著、日本医事新報社)、「リハビリ 生きる力を引き出す」(岩波新書)、「脳卒中・脳外傷者のためのお助けガイド」(共編著、青海社)など。世田谷区で40年に渡ってリハビリテーション科の医師として活動。現在は、外来診療と訪問リハビリテーションをしながら在宅の障害者、高齢者がその人らしい生活を主体的に計画し、実践する「地域ケア」に取り組んでいる。

◇参加申し込み書

所属機関名			
ご連絡先	TEL _____		
メールアドレス*	メールアドレス* _____ ※講師作成の事前配布資料をお送りしますので、 <u>参加方法を問わず、メールアドレスをご記入ください。</u> ※案内や資料の送付先が複数必要な方は、上の欄に分けてご記入ください。		
参加方法	<input type="checkbox"/> 会場 (定員 30名 / 国分寺市障害者センター)		
	<input type="checkbox"/> オンライン (定員 70名 / Zoom)		
参加者氏名		参加者氏名	
職種		職種	
参加者氏名		参加者氏名	
職種		職種	
講師への事前質問*	※事前に講師へお聞きになりたいことがございましたら、こちらにご記入ください。 当日の講演や質疑応答のテーマとして、取り上げさせていただきます。 (時間の都合上、全てのご質問に触れられない場合があります。予めご了承ください。)		